

平成 29 年度 アドバイザー派遣事業

研修実施団体：西伯郡小学校研究会生徒指導部会

日 時：平成 29 年 6 月 9 日

会 場：日吉津村立日吉津小学校

アドバイザー：杉田洋先生（國學院大學）

(1) 日 程

① 11：40～12：25 4校時 全学級の授業参観

- | | | |
|------|------------------------------|--------------------------------------|
| 1年1組 | 「いいこといっぱい みんなのじまん」ウ | 望ましい人間関係 |
| 1年2組 | 「そうじの仕方」 | エ 清掃などの当番活動等の役割と働くことの意義の理解 |
| 2年1組 | 「雨の日の過ごし方」 | イ 基本的な生活習慣の形成
カ 心身共に健康で安全な生活態度の形成 |
| 2年2組 | 「給食の食べ方」 | キ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成 |
| 3年 | 「気持ちのよいあいさつ」 | イ 基本的な生活習慣 |
| 4年 | 「じょうぶな体」 | カ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成 |
| 6年1組 | 「日吉津小ろう下歩行大作戦」 | イ 基本的な生活習慣の形成
カ 心身共に健康で安全な生活態度の形成 |
| 6年2組 | 「日吉津っ子 掃除力アップ大作戦～学校の掃除を見直そう」 | エ 清掃などの当番活動等の役割と働くことの意義の理解 |

② 13：25～14：10 全体授業公開

- 5年 「自己のよさの伸長」 ア 希望や目標をもって生きる態度の形成

③ 14：30～16：50 校内全体授業研究会

(2) 授業後の研究会より

各学級の授業や板書の写真を通して、指導講評を受けた。これまでの本校の研究の成果と課題を以下の通りに明示して下さった。

- 責任を持った重い自己決定をさせること。
「自分で決める」ことを促すことで、その結果、失敗しても、もう一度しようとする。続かなくても、有用感を感じる。力で押さえつけることは、生徒指導ではない。
- 解決の方法の体得。
場に応じた話合いの仕方を通して、児童が決めることができるように育てていく。
- 見通しのある授業を展開する。
学習の流れが分かる。誰にでも分かる工夫、支援
学習の終末が見える。何を考えるか、決めるかを明確に。
- 個々の児童のプライドやこだわりを大切にする。
自尊感情が損なうような内容や「注意をする。」というような解決方法にしない。
- いつも多数決で決めない。
個のこだわりを大切にしながら、折り合いをつけて考える。

さらに、新学習指導要領の特別活動と生徒指導の関連をわかりやすく説明して下さった。そして、全体授業研をもとに、これからの学級活動の授業のポイント3点を提案していただいた。

- 自己決定の場の時間を確保する。→逆算して時間配分を考える。15分は必要。
- 何を考えるのか、導入時に学習への見通しをもたせる。
- 教師がこだわりを持つ。(視点をしぼり、抑えたい内容へのこだわりを持って授業を構築する。)→後で授業を検討する場面でも課題が明確化できる。

新しい学習指導要領に示されたこれからの特別活動と学力の3要素との関連について講義いただいた。特に代表授業をとおして、授業の中に生徒指導の三機能が実現されているかの視点と意思決定をさせること、多様な他者と協働する集団活動の意義について指導を受けた。学級活動において、合意形成を図り具体的な行動に移して、自己効力感を味あわせることが、学校における様々な集団活動の生活向上につながり、現場の課題解決につながることを理解できた。他校や他機関の研修参加者と杉田先生の研修生の先生方もグループに分かれ、授業の良さ・課題・提案という視点でグループ協議を行った。各グループごとに協議内容を発表し、研修参加者がそれぞれの学校の課題に照らしながら、研修内容を各校に持ち帰り、課題解決の一助とすることができた。

